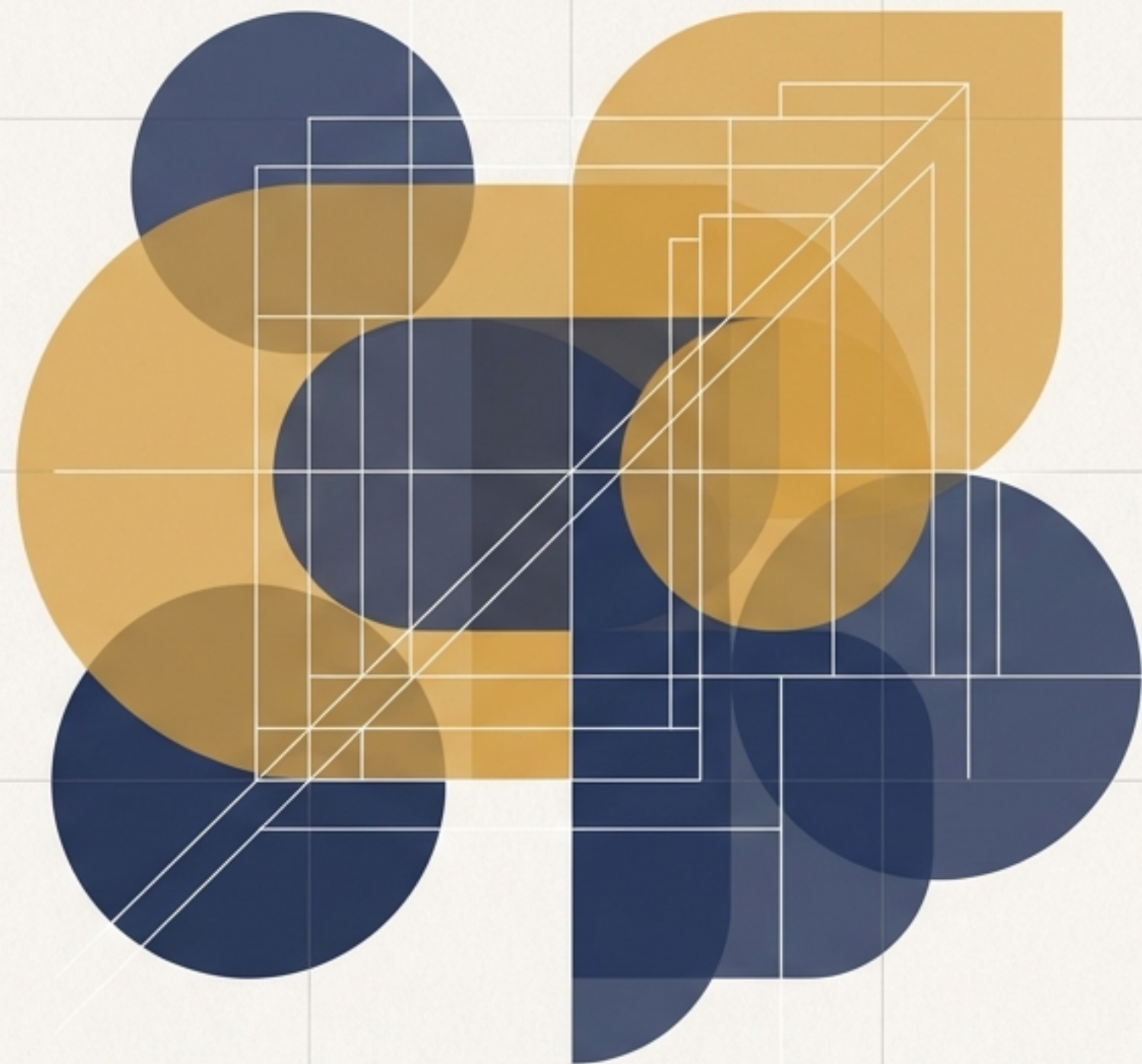


未来の学びを デザインする

小中連携教育コーディネータ養成カリ-
キュラムのご提案

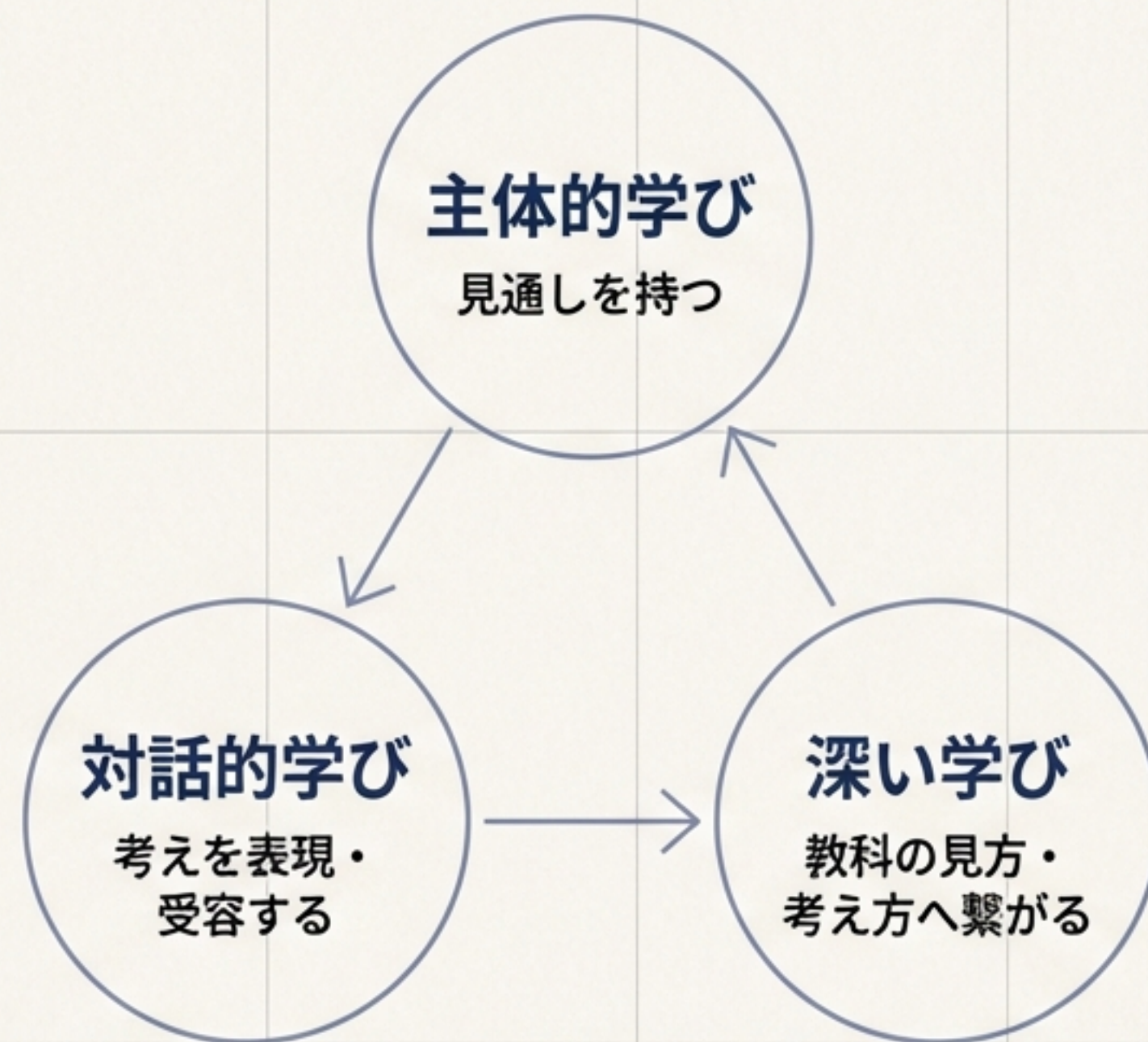


今、教育現場に求められる「学びの質的転換」

現代の教育における中心的な課題は
「主体的・対話的で深い学び」の実現です。

これは全く新しい指導法を導入するのではなく、既に行われている優れた実践を見出し、より自覚的に指導に生かしていく
「授業改善の視点」です。

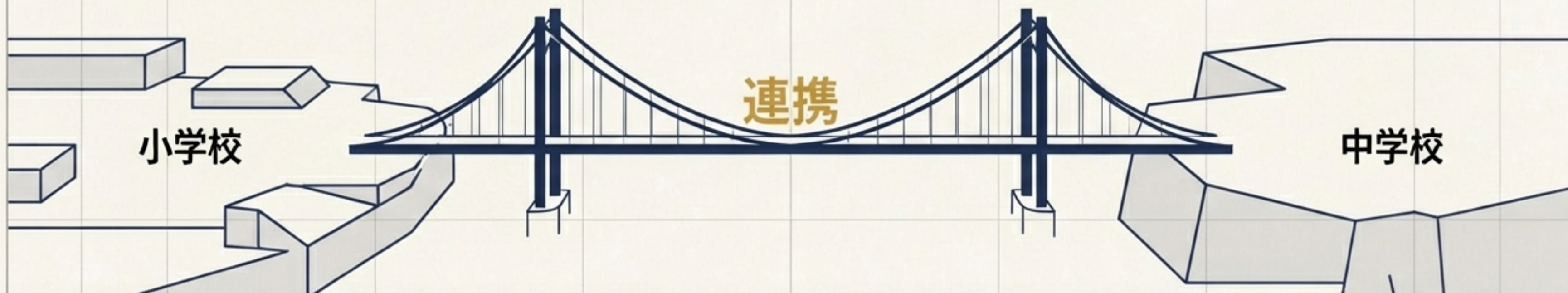
この実現には、教員の専門性を一層高める
アプローチが不可欠となります。



義務教育 9年間を貫く、一貫した指導体制という課題

もう一つの大きな課題は、小学校から中学校への円滑な接続です。生徒の発達や学習の連続性を保証するためには、一貫した指導体制が求められます。

義務教育の9年間全体を俯瞰し、カリキュラムや生徒指導の「段差」を埋めるリーダーシップが必要です。



課題解決の鍵を握る「小中連携教育コーディネータ」

この課題を解決するために「小中連携教育コーディネータ」という新たな専門職を提案します。

目的：義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持ち、教科横断的に学習内容を組み立て、時代の変化に対応した総合的な指導力で小中連携教育を推進する人材を育成すること。
彼らは、教員全体の質の向上を牽引する中核的存在となります。



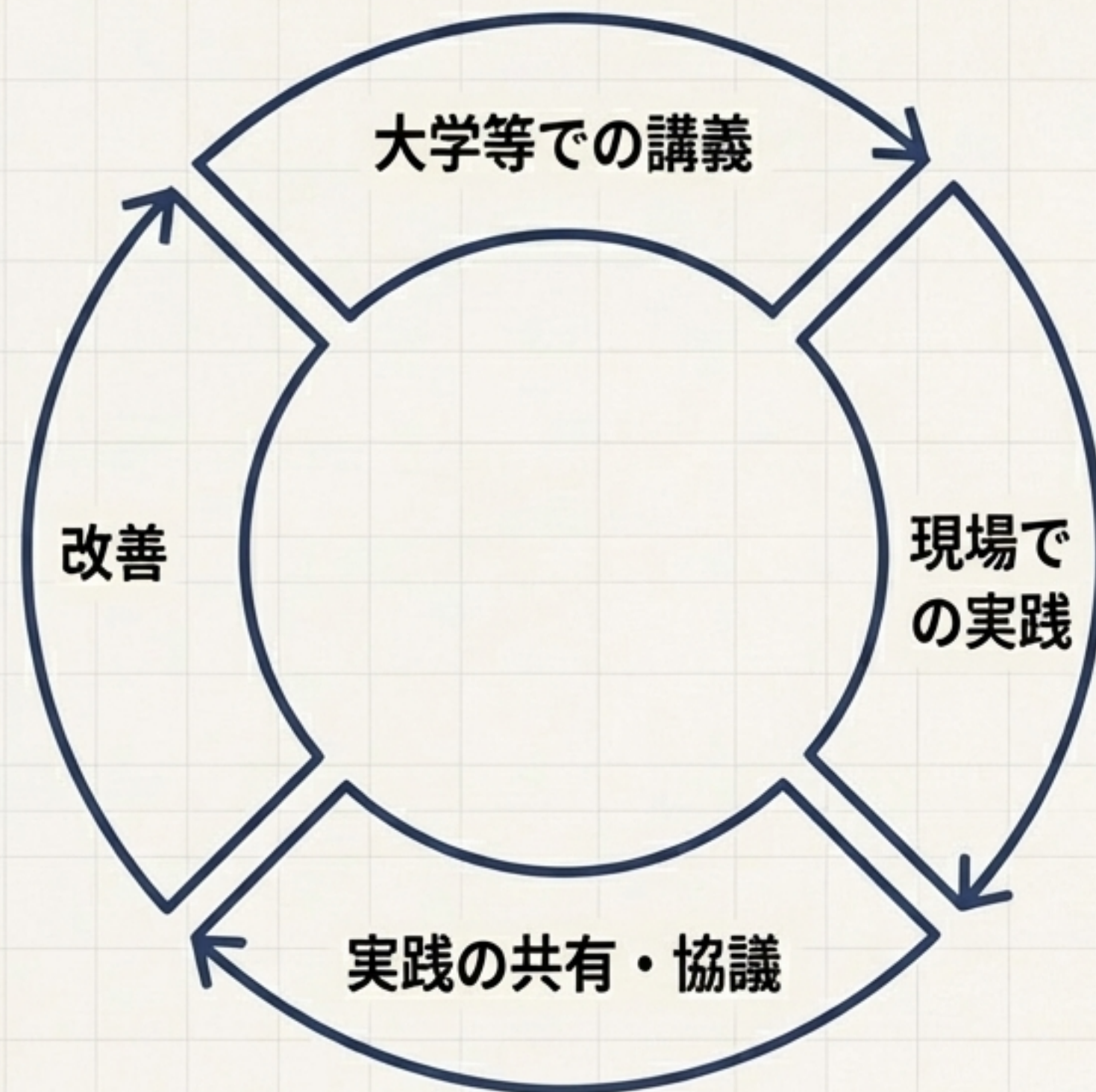
理論と実践を往還する、新しい研修スタイル

本研修は、知識の伝達に留まらない「往還型」モデルを採用します。

このアプローチは、研修で得た理論が現場の実践に確実に活かされることを保証し、研修成果を最大化します。

プロセス:

1. 講義: 大学等で理論的視点や教育リソースを学ぶ。
2. 実践: 各自の現場（学校）でテーマを設定し、実践する。
3. 協議・改善: 実践を持ち寄り、協議を通じて改善点を見出し、次の実践に繋げる。



コーディネータを育成する、体系的なカリキュラムの全体像

コーディネータの育成は、以下の体系的な科目群によって行われます。これは、中学校教員が小学校2種免許状と^附を取得するための要件も満たしています。（在職3年以上等の条件あり）



大学独自科目

小中連携教育コーディネータ概論
(15時間)



各教科の指導法

初等教科教育法（国語、算数、体育、音楽、理科、外国語など）



生徒指導

生徒指導論、進路指導
(8時間)



教育相談

教育相談、カウンセリング
(8時間)

コーディネータの核となる資質能力：「インストラクショナルデザイン指導力」

本プログラムが独自に設定した、コーディネータの最も重要な資質能力が「インストラクショナルデザイン指導力」です。

定義：学習成果のエビデンスに基づき、効果的な教育実践を普及させる指導力。
これは、真に効果的な学びの体験を体系的に創造するための力です。

インストラクショナル デザイン指導力

IDが目指す3つのゴール：効果的・効率的・魅力的

インストラクショナルデザイン（ID）とは、学習環境をデザインするための方法論です。
IDは、授業や教材が以下の3つの条件を満たすことを目指します。



1. 効果的 (Effective)

学習者が学習目標を確実に達成できる。



2. 効率的 (Efficient)

過度な負担なく、妥当な時間で目標を達成できる。



3. 魅力的 (Engaging)

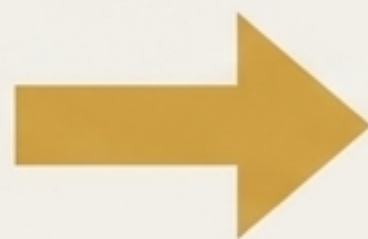
学習者が「もっと学びたい」という意欲を持つ。

出典: 鈴木（2005）の定義に基づく

目的から始める授業設計：「何をできるようにするか」が最優先

IDの最も重要な原則は、最初に学習目標を明確にすることです。授業でICTをどう活用するかを先に考えるのではなく、「学習者に何ができるようになってほしいのか」を定義し、その達成度を測る評価方法の方法を決定します。指導方法や教材（ICTなど）の選択は、その次です。この順序が、指導のブレを防ぎ、学習効果を最大化します。

**1. 学習目標と
評価方法の決定**



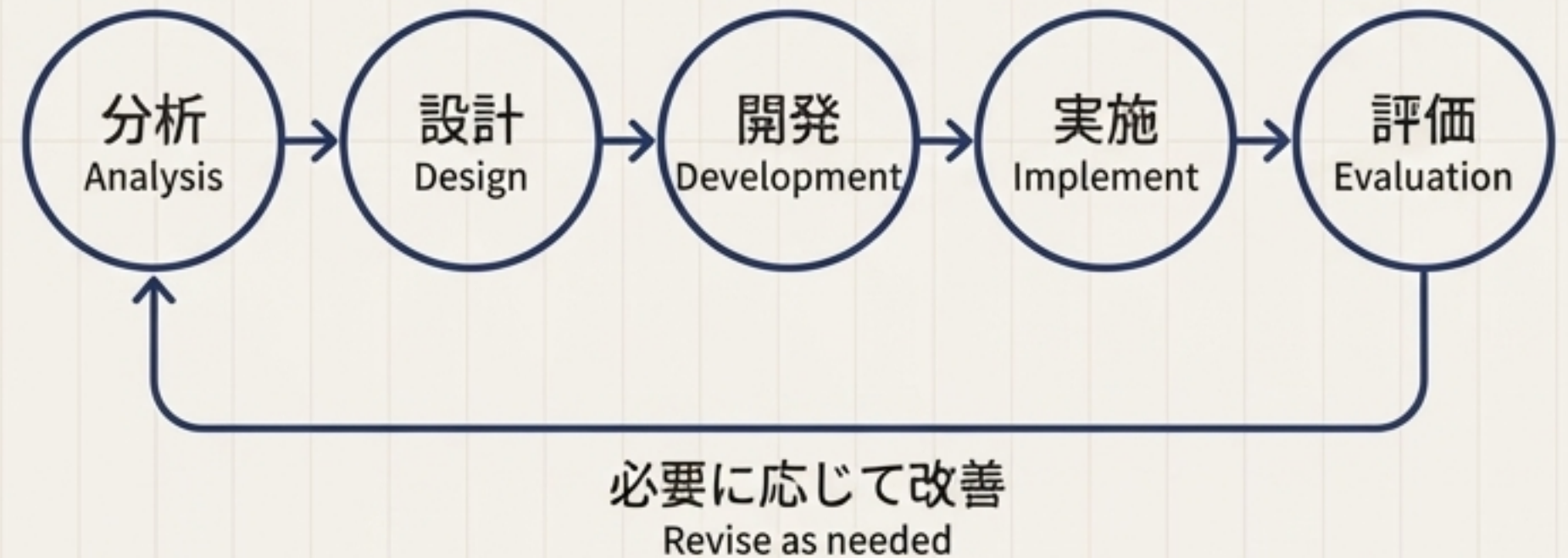
**2. 目標達成のための
指導方法・教材の検討**

成功へのロードマップ：ADDIEモデル

ADDIEモデルは、インストラクショナルデザインを実践するための基本的なプロセスです。

「分析」「設計」「開発」「実施」「評価」の5つの段階の頭文字をとったもので、より良い教材や授業を目指すための、体系的なアプローチです。

このサイクルを繰り返すことで、授業を継続的に改善していきます。



ADDIEモデル：授業改善の5ステップ

ADDIEモデルの各段階では、以下の内容を検討します。



分析 (Analysis)

学習者の特性は何か？何を学ぶ必要があるのか？現状を分析する。



設計 (Design)

明確な学習目標を設定し、評価方法と指導の戦略を決定する。



開発 (Development)

設計に基づき、具体的な教材や指導案を作成する。



実施 (Implement)

開発した教材や指導案を用いて、実際に授業を行う。



評価 (Evaluation)

授業は学習目標の達成に役立ったか？成果を評価し、改善点を見つける。

授業を常にブラッシュアップするための 「思考のフレームワーク」

インストラクショナルデザインとADDIEモデルは、単なる教材開発の手法ではありません。

使用するメディアが変わり、求められる学力が時代と共に変化しても、「目標」「評価」「方法」の整合性を意識することで、常に授業を改善し続けるための思考のフレームワークとなります。



質の高い学びを創造する、自律した教育現場へ

この研修で育成されたコーディネータは、自校における授業改善の触媒（カタリスト）となります。IDの原則を組織全体に広めることで、教員一人ひとりが自律的に授業を改善する文化を醸成します。その結果、生徒にとってより質の高い学びが実現し、教員の専門的な成長にも繋がります。



更なる学びと実践のために

本日の内容を踏まえ、ぜひご自身の現場に置き換えてご考察ください。

考察のための問い：

1. 小中連携教育コーディネータに、具体的にどのような資質能力が求められるだろうか？
2. 「インストラクショナルデザイン指導力」を、自身の学校の具体例を挙げて説明するとどうなるか？
3. IDの考え方を活用した授業改善を、自身の担当教科で計画するならどうなるか？



参考資料：右のQRコードから、本講義の元となる資料にアクセスできます。

ご清聴ありがとうございました
